

BDHQ の妥当性論文のご紹介

BDHQ の妥当性研究の論文(原著)を2つ紹介させていただきます。

■対象者と方法

全国3地域(大阪府、長野県、鳥取県)に住む30歳から76歳の成人184人(男性92人、女性92人)を対象として、ていねいな半秤量式の食事記録法を用いて、1年間にわたり、合計16日間の食事を調べ、そこから計算された食品群・栄養素の摂取量を比較基準(ゴールドスタンダード)として、BDHQから計算される数値の妥当性を比較検討しました。調査日は、各季節から4日間(平日が3日間と週末が1日間で、特別な行事が入ったり、病気などで特別の食事になったりした日を除く)、合計16日間が選ばれました。

結果は、集団平均値の差ならびに個人間ランキングの指標としての相関係数を用いて表現され、実測値(粗値)だけでなく、エネルギー済み調整値も用いてこれらの検討が行われました。

これらの論文では、DHQについても同時にその妥当性が検討され、BDHQの妥当性との比較が行われました。

詳しくは、ぜひ、原文をお読みいただきたくしますよう、お願い申し上げます。原文のpdfファイルは下記までメールなどでご依頼ください。

論文抄録の和訳と簡単な紹介を現在作成中です。できるだけ早期にお知らせできるよう、現在、作業を進めています。よろしくお願ひ申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻社会予防疫学分野 佐々木 敏 (ささき さとし)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話 : 03-5841-7872、FAX : 03-5841-7873

e-mail: stssasak@m.u-tokyo.ac.jp

Website: <http://www.nutrepi.m.u-tokyo.ac.jp/>

■食品群に関する妥当性

#14117. Kobayashi S, Murakami K, Sasaki S, Okubo H, Hirota N, Notsu A, Fukui M, Date C. Comparison of relative validity of food group intakes estimated by comprehensive and brief-type self-administered diet history questionnaires against 16 d dietary records in Japanese adults. Public Health Nutr 2011; 14: 1200-11.

■栄養素に関する妥当性

#14517. Kobayashi S, Honda S, Murakami K, Sasaki S, Okubo H, Hirota N, Notsu A, Fukui M, and Date C. Both comprehensive and brief-type self-administered diet history questionnaires have reasonable ranking ability for nutrient intakes compared with 16-day dietary records in Japanese adults. J Epidemiol 2011: in press.

【以上】

この内容は予定なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。